



上向台小だより

9月号
西東京市立上向台小学校
令和6年9月2日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai>

2学期 スタート！ 夏の熱気から秋の活動へ

～地域とともにある学校に向けて～ 校長 酒見 裕子

長い夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が校内に響き、学校に活気が戻ってきました。夏休みならではの様々な経験は、子どもたちにとって貴重なものであったと思います。各御家庭での様々な取組や工夫に感謝申し上げます。

さて、今年の夏は、パリ 2024 オリンピック大会が開催されました。選手たちの素晴らしい活躍を手に汗を握りながらテレビ観戦された方も多かったのではないのでしょうか？ 勝負なので勝ち負けは当然ありますが、そこに至るまでの様々なドラマや、何と言っても選手の一生懸命な姿には感動させられました。

そして、夏休みと言えば、甲子園（全国高等学校野球選手権）！ 昨年は慶応義塾高校に注目しましたが、阪神甲子園球場が100年を迎えた今年の全国高校野球、私は自分と縁のある地域の学校の試合をいくつか観戦しました。

特に、印象深かったのは、強豪校を次々と破り、公立校として唯一ベスト8に残った大社高校。地元から駆けつけた多くの応援団の響き渡る大声援は、選手たちにとって大きな力となり、彼らのパフォーマンスを後押ししていました。また、この大声援は、選手たちに「自分たちは地域の代表である」という自覚と誇りをもたせたのではないかと感じました。

全国から有望な中学生を集めて鍛え上げ、甲子園を目指す私立の強豪校の野球も魅力的ですが、大社高校のように選手がほとんど地元出身の公立校が躍進する姿に、胸が熱くなりました。

早稲田実業との延長戦を制した際には、「神々の国からやって来た少年たちの快進撃はまだまだ続きます」というアナウンサーの名実況も話題に！

準々決勝では惜しくも神村学園に敗れましたが、神村学園の校歌を大社高校の大応援団が手拍子でたたえる姿も本当にすてきでした！！

「おらが町の学校」が根底にあり、試合を重ねるたびに地元の方々が甲子園へ駆けつけ、大声援の贈り物を選手たちに届ける。このような光景は、現在、コミュニティ・スクールとして「地域とともにある学校」を目指している本校でも、地域の方々が「おらが町の学校」と、様々な形で応援していただけるような学校を目指していきたいと感じました。

応援繋がりでも、もう1校。ベンチに入っていない野球部員がアルプススタンドで踊ることが伝統になっている滋賀学園高校です。

アルプススタンドの最前線でユニークに踊る姿がSNSでは拡散され、「キレキレダンス」と話題騒然となりました。ジャズオーケストラ部のリズムにのり、芸人のギャグやアイドルの振り付けを取り入れた創作ダンスは、とにかく大きくて面白い動きを求め、野球部員で作る応援団がーから考えたそうです。

2学期は、体育発表会や音楽会などの多くの行事があります。1学期から、そして夏季休業期間中も、Google クラウドで体育発表会の準備や音楽会の練習を進めている学年も！

体育発表会に向けては、表現運動の曲を選んだり、ダンスリーダーが踊りのイメージ動画を共有したりしている学年、体育発表会のスローガンやどのような団体競技を行うかなどについて考えている学年……など、子どもたちが主体的に活動する場面を多く設定しています。

先ほどの話ではありませんが、今年の高校野球を見た子どもたちが、工夫して応援することなどもあるかもしれませんね。

音楽会に向けても、歌や演奏の動画を見た児童から「リズムが分かりにくいけれど、覚えるコツはありますか？」、「みんなリコーダーどう？ 高いミと高いファのところずっと止まっているんだよね。なにかコツとかあったら教えてほしい。」と夏休み中にも、友達とアドバイスし合っている様子が見られました。

学校行事でも子どもたち一人一人がもっているよいところを十分発揮できるよう、練習を無理やりさせるのではなく、子どもたちがすすんで取り組むことができるように工夫していきたいと考えています。教師主導で指導した方が、効率的で見栄えもよいことと思いますが、子どもたちの主体性は損なわれるでしょう。子どもが主体的に考えたり活動したりする場面を多く設けられるよう、学校教育の新たな可能性や多様性を示していけたら……と考えております。

2学期も、子どもたちの頑張りを保護者や地域の皆様に御覧いただき、応援していただけるよう、皆様の御理解と御協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。